

縄文文化でお正月

縄文時代、月日の数え方は今と異なるので、1月1日をお正月としてお祝いをしていただこうかは分かりません。しかし縄文人にも太陽の位置や月の満ち欠け、四季の移り変わりで時を知るすべはあり、特別な日(ハレの日)があったであろうことは、環状列石(ストーンサークル)と呼ばれる特殊な遺構の存在などから分かっています。

そんな縄文人のハレの日を想像しながら、今年は縄文文化でお正月を祝ってみませんか？

◆社会教育課 園 (☎042-438-4079)



は、縄文のお鍋だった？

芸術品のように多彩な模様や形の縄文土器。さまざまな使い方をされた容器ですが、その中でも主な使い方はお鍋です。土器は土を焼くことによって堅くしたもので火には強く、長い時間火にかけても大丈夫。この土器の発明によりぐつぐつと煮込む料理が可能になり、あくの強いドングリや山菜なども食べられるようになったのです。

お正月、家族みんなで縄文鍋を囲んでみては？ 鍋の具は、イノシシの肉、貝、きのこ、山菜などなど。自然の恵みたっぷりでおいそうですね！



お酒

どぶろく(濁り酒)を作っていた？

お正月、おとそやお神酒など、お酒は欠かせません。さて、縄文時代にお酒はあったのでしょうか？ お酒そのものは未発見ですが、お酒を造ったのではないかとされている「有孔罎付土器」という変わった形の土器が下野谷遺跡からも見つかっています。口の部分にある罎状の部分に、小さな穴がぐると開けられていて、土器の口を皮などで密閉し内容物を発酵させたのではないかと、いわれています。ニワトコという植物が入ったまま見つかった例もあり、どぶろくのようなものを作っていたのかもしれません。



やっぱり、狩りの後にはコレ！



下野谷遺跡とは？

下野谷遺跡は、今から5,000～4,000年前の縄文時代の人々が暮らした跡が残る東京ドーム約3個分(約13万4,000m²)の広さを持つ遺跡です。南関東最大級の縄文時代中期の集落として、平成27年3月10日に国史跡に指定されました。

「したのやムラ」は、石神井川や多くの湧き水などの豊かな水に恵まれた日当たりのよい高台(標高50～60m)の森を切り開いてつくられました。下野谷遺跡からは膨大な土器や石器が発見されており、その中には東関東や甲信越地方で流行した形や模様のついた土器や信州産の黒曜石なども含まれることから、広域なネットワークがあったことが分かっています。



▼大量の土器が出土



◀竪穴住居跡

掘立柱建物跡▶

密集した住居の跡▼

